

## 「公共の本箱 (öffentlicher Bücherschränke)」

人文学部長：今仲昌宏

今夏、ボン大学を訪問した際にボン中央駅からキャンパスに向かう通りに設置された「公共の本箱」を見つけました。英語訳は Public Bookcase になるでしょうか。これは 1990 年代にドイツのダルムシュタットとハノーファーで始まった試みから発展した制度です。公共の場や施設などに置かれた写真のような防水キャビネットに誰でも不要になった本を入れておくことができ、通りがかりの人が気に入れば、自由に拝借ないしはもらい受けてもよいというシステムです。

図書館のような貸出の手続を必要とせず、市民がお互いに自由に本の貸し借りや、交換ができるようにと考え出された制度です。こうした制度はある意味で成熟した社会において、市民同士の信頼関係が根底にないと成立しないといってもよいでしょう。

現在ドイツ語圏（ドイツ、オーストリア、スイス）を中心に各国にこの活動が広がっています。

本学（八千代キャンパス）でも学生ラウンジで同様の活動を行なっています。学生諸君も是非活用してみてください。興味深い本が数多く陳列されています。

### <参考図書のご案内>



#### <現代ドイツを知るための 62 章【第 2 版】浜本 隆志 (著) >

ドイツの人々の生き方や文化の全体像が明らかに…。文化、生活から国民性、さらには移民、ジェンダー、環境問題まで、さまざまな情報が整理された最新のドイツの実情を理解するための一冊です。

今仲先生！ドイツには、誰でも不要になった本を入れておく BOX が街の中にあって、みんなが活用してるんだね。とっくんもビックリだよ。

★本のことで わからないことや、困ったことがあったら、遠慮なく図書館スタッフ（司書さん）に相談してね。

By とっくん

